

一関文化賞表彰式典挙行

文化・芸術の振興、人づくりの活動を顕彰

式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好

令和2年度
(第30回) 一関文化賞表彰式



式辞を述べる内田理事長

皆様、本日はご多用中にも拘らずNPO法人一関文化会議所令和2年度「一関文化賞」の表彰式に、一関市長勝部修様を初め御来賓の方々の御臨席を賜わり、誠に有難うございます。例年であれば菊薫る美しいこの季節は芸術文化読書スポーツの秋と称して華やかなイベントや大会など目白押しとなるところです。

ところが今年はコロナ感染がなかなか終息せず、何かと制約制限せざるを得ない状況にあります。この会場にお入りになるにも、マスクの着用とか手指の消毒、検温等御協力を戴きました。様々な対策を講じて万全を期した上で、今年度の「一関文化賞」の表彰式を挙行させて頂きました。

皆様、受賞者の方々の顔やお姿を御覧ください。コロナ禍の不安を吹き飛ばして下さるような輝かしい方々で、当地域の発展に大きく貢献されたお一方と二団体様でございます。

生活文化部門では小野寺誠四郎様、人づくり部門ではおはなしばち様、芸術文化部門では一関女声合唱団様、以上の方々です。それぞれの素晴らしい活動歴や御功績に関しましては、この後担当の者から御紹介申し上げます。

お三方には今後も充実した活動を継続され、一関の子ども達から若い世代そして高齢の方に至るまで夢と希望を与えられ、潤いに満ちた豊かな文化的生活を送ることができるよう御活躍されることを御期待申し上げます。私ども文化会議所も本来の理念に則り、これからも努力して参る所存ですので皆様の尚一層の御支援御理解をお願い申し上げます

結びに、例年であれば厳粛な式典に続いて「祝賀会」の席を設け、和やかに御歓談戴くところですが、本日は大変申し訳ございませんが“お流れ”と致しますので御了承下さい。

それではお三方の本日の受賞に対しまして改めてお祝い申し上げます、式辞と致します。本日は誠にありがとうございました。

令和2年11月5日



祝辞を述べる勝部一関市長

令和2年度(第30回)一関文化賞

- ・生活文化部門 小野寺 誠四郎氏
- ・人づくり部門 おはなしぱちぱちの3者を表彰
- ・芸術文化部門 一関女声合唱団

奨励委員会 委員長 只野 弘三

第30回となる令和2年度一関文化賞の表彰式は、11月5日、一関文化センター中ホールを会場に執り行い、当地域において文化・芸術の振興、人材育成等に貢献された3者を表彰し、その功績を讃えました。

式では、内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂くとともに、それぞれの活動が映像やパフォーマンスにより発表されました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



左から、小野寺誠四郎氏、おはなしぱちぱち 佐藤代表、一関女声合唱団 横地代表

【受賞者の紹介】

一関文化賞「生活文化部門」

小野寺 誠四郎 氏

小野寺誠四郎氏は、1965年から2003年3月まで県立高等学校で教鞭を執るとともに、1984年には一関カメラクラブに入会、1993年から2018年までの25年間は同クラブの会長職を務め、2019年からは一関市芸術文化協会会長等の要職に就かれております。

教員として在職中には、赴任した地域とのかかわりの中で、北上山地の多様で豊かな自然、一方、産業活動や生活利便の面から見ると、その自然は厳しい気象条件を伴い過酷な風土であること、さらには、そこで生き生きと生活するには人間愛、家族愛が大切ということについて写真を通して生徒に教えるとともに写真集を出版、作成しています。

教職勇退後には、2005年に一関市民の命の水源である磐井川とその流域の生活の移り変わりを記録した写

真展『磐井川』・『郷土の記録展』の開催。

2011年に平泉が世界文化遺産登録されましたが、その登録への様々な取り組みと連動させながら2007年の『骨寺村の四季』。2009年の『骨寺村の四季P2』の写真展開催。

さらには、2014年『骨寺村の生きもの語り』。2015年クラブ創立『50周年写真展』と特別企画展『15年前の街並みと今』。2017年『平泉の世界遺産と関連遺跡』。2018年『金山家の6年』等々の写真展の開催により、中世の景観が偲ばれる重要文化的景観の「骨寺村」や、「金山棚田」等が市民の身近で大切な歴史、風土であることを親しみやすく啓蒙しています。

今年3月「北国の冬は耐えることから始まり、ラセン状に未来につながることを願う」を序文に添えて冬の季節から始まる骨寺村の写真集『骨寺村の四季』を出版していますが、このことは、骨寺村の重要文化的景観の「いま」を切り取り、記録としてその価値に彩りを加えているといえます。

氏の卓越した識見・技能・行動力は郷土の、地域生活文化の記録化、さらには歴史の伝承保存への貢献度は高く、その功績は多大なものがあります。



表彰状・記念品の授与



写真集『骨寺村の四季』

おはなしぱちぱち

おはなしぱちぱちの会は、千厩町民大学の「図書館読み聞かせ講座」を2年間聴講した受講生の有志12名により、2001年4月に自主的読み聞かせサークルとして結成されました。今年で結成20年目を迎え、現在は会員8名で活動しています。活動目標として、「こどもが心豊かに育つことをねらい、お話を届ける」「会員が活動を通して生き生きと生涯学習に取り組む」を掲げています。

活動場所は、主に千厩町内の保育園、幼稚園、小学校での絵本の読み聞かせ、千厩図書館のおはなし会(年間24回)と「せんまや夜市(今年はコロナウイルスのため中止)」で空き店舗を利用し、4月から10月まで月1回、絵本や紙芝居を読み聞かせる活動をおこなっています。他にも、地区子ども会、地区民祭、老人クラブ、さらには、東日本大震災後被災地からの要請にも応えて様々な場所で活動しています。

活動にあたっては、「どう読むか」より「どんな絵本を選ぶか」を大事にし、年齢に応じた絵本を中心に、「おはなしの絵本」「科学絵本」「気分転換の絵本」「季節の絵本」から選本して読み聞かせをしています。また、千厩高等学校の美術部に協力依頼をして制作した大型紙芝居なども使って演ずることもあります。

常にたのしいおはなし会を目指して、「選本-実践-交流-記録」などの会員同士の学びあいを大切にしており、おはなし会終了後には、短時間でも子どもの反応等について反省し、「ぱちぱち記録」を書き、その一部を「ぱちぱち通信」に載せて発行しています。

おはなしぱちぱちの会は、結成から19年間次代を担う子どもの成長を願い、弛むことのない活動を展開してきております。その活動は、市内の読み聞かせの会の中でも突出する回数を重ねており、文字通り地域の子どもたちの豊かな心を育み、次の世代に繋がる活動として地域に溶け込んでおり、その功績は多大なものがあります。



おはなしぱちぱち 大型紙芝居を実演

一関女声合唱団

一関女声合唱団は、1995年2月に25名で結成され、今年26年目を迎えます。

当時、一関では東日本合唱祭や第九演奏会など大規模な合唱イベントの定期的な開催等により、「合唱のまち一関」をスローガンとしたまちづくりの気運が昂まるとともに、まちを挙げての合唱イベント等において女声合唱のパートの核を担い、且つ、より高い合唱力を先導できる女声合唱団の誕生が囑望されました。

こうしたニーズを背景に、

- ・コンクールに出場し合唱技術の向上を目指す。
- ・各自の持てる音楽性・表現する声を大切に、合唱を作り上げる。
- ・歌う仲間・素晴らしい師との出会いを通して自分を磨きながら、合唱で地域とつながり、地域に貢献していく。

ことを目的に掲げて設立されています。

団設立の年から、毎年全日本合唱コンクール岩手県大会に出場し続けており2019年で25回を数える中、金賞を18回受賞、なお、この受賞の中では全部門を通じて総合第1位の千葉賞を1回、総合第2位の全日本合唱連盟理事長賞を2回受賞。同東北支部大会では、金賞を1回、銀賞を10回受賞しています。

また、これらのコンクールにおける活躍に裏打ちされた本団体の群を抜く合唱力は地域における評価も高く、日常的に他の合唱団の定期演奏会への賛助出演、岩手芸術祭合唱祭への参加、地区公民館等におけるコンサートへの出演等について要請を受け活動するとともに、ボランティアで福祉施設を訪問してその優れたハーモニーを届け、地域に活力を与えています。

さらには、「合唱のまち一関」を情報発信しているイベントの東日本合唱祭やいちのせき第九演奏会において、高音域の女声パートで力を発揮し、皆を牽引し合唱の中心的な役割を担っています。

これら、一関女声合唱団の尽きることのない設立目的達成に向けた活動は、地域の合唱文化への貢献度が高く、その功績は多大なものがあります。



一関女声合唱団 歌声を披露 指揮は山田靖了氏

ふるさと学習院に延べ154名が受講

事業委員会 委員長 島山篤雄

本年度のふるさと学習院は、2021年に平泉の文化遺産が世界遺産登録10周年を迎えるにあたり、「平泉研究最前線2020—平泉文化最新情報を学ぶ」をテーマに、近年の発掘成果や新たな知見を踏まえた講義や現地探訪を通じて平泉について学びを深めました。

新型コロナウイルスの感染が拡大する中で、計画した事業が実施できたことは幸いでした。



現地探訪 横手市教育委員会職員による解説



第4回講師 相原康二氏の講演

ふるさと学習院

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月24日	開講式、 講座「横手市歴史的風致と前九年・後三年合戦」	横手市教育委員会教育総務部文化財保護課 埋蔵文化財担当 島田 祐悦氏	38人
2	7月28日	講座「遺跡から見た奥州藤原氏の世界」	平泉町観光商工課 課長 八重樫 忠郎氏	39人
3	9月17日	現地探訪「雄物川流域の歴史と文化を訪ねる」	見学地：後三年合戦金沢資料館、横手城跡 横手市増田伝統的建造物群保存地区 他	43人
4	10月28日	講座「岩手県内の平泉文化」 —身近にある平泉文化に注目しよう—	えさし郷土文化館 館長 相原 康二氏	34人

ふるさと子ども探検隊

子ども委員会 委員長 佐藤 健三

次代を担う子ども達が郷土の歴史や文化に触れ、体感をとおして学び、地域に誇りを持ち、豊かな感性を育てるため「一関ふるさと子ども探検隊」を実施します。

- ▶ 令和3年3月26日(金) 8時～12時30分
- ▶ 対 象：花泉地域の小学4～6年生、20名を募集
- ▶ 行 先：中尊寺(平泉町)、一関市博物館 ほか
(市役所花泉支所発着、貸し切りバス利用)
- ▶ 募 集：対象校を通じチラシを児童に配布。
申込受付は3月1日～15日
定員になり次第締め切る。
- ▶ 参加費：無料

2020年度の事業を中止

新型コロナウイルスの影響により、東大生出前科学授業及び研修・視察事業は中止しました。

事務局

2020年度 一関文化会議所 子どもスペシャル

春休み親と子のコンサート

音楽の絵本

～ズーラシアンブラスと弦(つる)うさぎ～

本格的なクラシックから映画音楽に童謡まで、動物たちが奏でる多彩な音楽の世界をお楽しみ下さい。

- ▶ 令和3年3月27日(土) 開演 午後2時
- ▶ 一関文化センター 大ホール
- ▶ 全席指定(前後左右を開けた座席配置となります)
- ▶ 大人 1,000円(当日1,300円)
- ▶ 子ども(3歳から中学生) 500円(当日600円)
- ▶ 3歳未満は保護者1名につき1名まで膝上鑑賞無料(着席鑑賞は有料)
- ▶ チケットは文化センターにて取り扱います。
- ①窓口購入
- ②電話予約
- ③ネット予約

